

オノマトペの研究

国語班

有田谷 真子、堀 成樹
村上 ひかる、安田 美央
吉田 紗理奈

1. はじめに

私たちは、普段の身の回りにあるオノマトペについて興味を持ち外国と比較して、調査することにしました。

「外国にはオノマトペがない。あったとしても、数少ない」という仮説を最初にて、オノマトペ辞典を用いて、高津高校生用と外国人の方々向けのそれぞれのアンケートを作成し、ここから得た情報をもとに、さまざまなことを深く掘り下げ、調べていきました。

2. 研究の過程

- (1) 高津高校生 80 人にアンケートを取り、集計して、オノマトペの日本での認識のされ方や、関連性を調べる。
- (2) ECC 外語専門学校の生徒にアンケートを取り、あらゆる国のオノマトペを認識するとともに、自分たちの仮説が正しいか検証し、また、日本のオノマトペの豊かさを知る。
- (3) 食べ物のオノマトペを中心に、班内で美味しさを表現するオノマトペと、逆に美味しくなさそうな表現のオノマトペを出し、出てきたオノマトペを中心に、関連性や特徴をとらえる。(一部を抜粋)

	3人	2人	1人				おいしく なさそう				
キャベツ	シャキ シャキ					ハリがない	ぱさぱさ かさかさ	ぱさ ぱさ	ぐちゃ ぐちゃ	しな しな	しな しな
ミカン	プチ チ					形がない	ぐじゅ ぐじゅ	じゅく じゅく	ぶち ゅっ	べちよ べちよ	ぐちゃ ぐちゃ
イチゴ			プチ プチ	モジュ モジュ	シャ リッ	熟れ すぎて いる	じゅく じゅく	じゅく じゅく	ぶし ゅっ	じゅく じゅく	しな しな
リンゴ	シャク シャク					水分 がなさ そう	ぱさぱさ かさかさ	ぱさ ぱさ	ごりっ	ふにゃ ふにゃ	しな しな

3. 結果、考察

研究(1)では、大半の高津生が同じ回答をしたことにより、大半の人は、皆同じような認識や感性を持っていることが判明した。また、大半の人が認識していた事柄でも、オノマトペ辞典で調べてみると、間違った認識を持っているということも分かった。

研究(2)では、初めに考えていた「外国にはオノマトペがない。あったとしても数少ない」という仮説は覆され、外国にもオノマトペがあり、各国独自のオノマトペがあった。その中で、日本では、さまざまな表現の仕方がある、砂糖の落ちる表現のオノマトペが多数の国でなかった。

そこから、日本のオノマトペの豊富さを改めて認識し、発展させて、研究(3)を行い、その結果、食べ物のおノマトペは、食べる時の口の開け方が母音で、食べ物の特徴が子音であることを推察することができた。(下図参照)

①母音→食べる時の口の形

②子音→その食べ物の性質

{	N→粘性 (ねばねば) 納豆・おくら
	B→かたい (バリバリ) せんべい・おかき
	K→かたい (カリカリ) ベーコン
	S→乾燥 (サクサク・サラサラ) クッキー
	T→なめらか (ツルツル) ラーメン
	F→やわらかい (ふわふわ) わたあめ

また、食べ物のおノマトペに関しては、触覚・聴覚・味覚という様々な感覚を表現するのに用いることができることもわかった。

以上の研究結果により、海外では、音で感じられるものに関してのおノマトペが多かった(鶏の鳴き声や雨の音)のに対して、日本では擬態語で表すことができるもの(砂糖の落ちる音など)のおノマトペも豊富にあることが判明した。

4. 参考文献

擬音語・擬態語4500 日本語オノマトペ辞典 (小学館) 小野正弘
感性の言語学1——オノマトペ再考 山梨大学 仲本 康一郎